



2019・8・21

第 348 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

安倍退陣へ、草の根の宣伝・対話さらに

8・15 に改憲阻止の決意新た

【青森県／青森県 9 条の会】 「安倍改憲阻止、安倍内閣退陣」で共同する青森県 9 条の会、青森ペンクラブなど 11 団体は終戦記念日の 15 日、青森市の青い森公園で「戦争法廃止！憲法改悪許さない！青森平和集会」を開きました。

集会には、「平和を願い、行動し続けることが必ず実を結ぶと信じているので暑いけど頑張ります」(41 歳男性)、「安倍政権は終戦の日に戦争と歴史に向き合い、韓国国民へも謝るべきだ」(77 歳男性)と、30 度を超える暑さのなか約 100 人が参加しました。

立憲民主党の敦賀谷貴幹事務局長、日本共産党の高橋千鶴子衆院議員、社民党の斉藤憲雄事務局長、前衆院議員の升田世喜男氏、市民連合の神田健策共同代表が連帯あいさつし、国民民主党の田名部匡代参院議員がメッセージを寄せました。

集会では、安倍 9 条改憲反対 3000 万人署名の成功、市民と野党の共闘をさらに強めることを盛り込んだ宣言を採択しました。

安倍首相が父の墓前で改憲誓う

安倍首相は 13 日午前、地元・山口県長門市にある父・晋太郎元外相の墓参りを行った。首相は昭恵夫人とともに墓前で手を合わせ、憲法改正の実現に意欲を示した。首相は墓参後、記者団に「自民党は立党以来の最大の課題である憲法について、国会で論議をいよいよ本格的に進めていくべき時を迎えていることを報告した」と語った。
(「読売」8月13日)

改憲団体は「総力を結集」と決議

日本会議と英霊にこたえる会は 15 日、靖国神社で、改憲や国会議員・首相らの靖国神社参拝を求める集会を開きました。その中では参院選で改憲勢力が 3 分の 2 議席を割ったことは「誠に残念」との声も出され、「よりいっそう運動の輪を広げ、憲法改正に向けて総力を結集しなければならぬ」と集会声明を採択しました。

新成人に 9 条のプレゼント

【長野県栄村／栄村九条の会】 人口

1800 人余りの栄村では、雪のない毎年 8 月 15 日が村の成人式です。

10 年程前より成人式にあわせて、8 月 15

日は、①終戦記念日であること、②平和な社会を作ること願って、新成人（毎年 15～20 人くらいです）にプレゼントを手渡してきました。

当初は、村議や新婦人で取り組みましたが、九条の会が再スタートした 2014 年からは合同でとりくんでいます。

「おめでとう！」と渡しているのは、九条の会のリーフレットとレイラ化粧品のサンプルの他、「不戦の誓い」（栄村で戦後 50 年に村民の戦争体験をまとめた本）からの抜粋や、平和憲法（9 条）が遠くスペインのエルデ市に記念碑としてある事や、各界の人々の平和へのメッセージ、村人からのメッセージなどを入れてプレゼントしています。

これからも続けていきたいと思っています！

（栄村九条の会 杉浦恵子）

「語り継ぐ会」成功へ宣伝広げ

【和歌山県日高郡由良町／九条の会ゆら】 8 月 4 日、「第 15 回戦争体験と平和への思いを語り継ぐ会」を、80 人の参加で開催しました。

今回も宣伝活動に力を入れました。第 1 回からの参加者名簿を参考に直近の 5 回に参加いただいている方に紹介ハガキを発送しました。A 2 判の大型ポスターは A コープ正面の入口ドアに、来た時も帰る時も、どちらからもよく見えるように両面貼り合わせでポスターを貼らせていただきました。そのほか、役場前の喫茶店、中央公民館と地区会館など全部で 10 カ所に、A 4 判ラミネートポスター約 60 枚は各地区内の掲示板

などに貼り出し、それに新聞折込みを併用し、最後は展示用に焼夷弾の残骸を提供してくれた日高川町の人を紀州新聞に取材してもらって、3 日前の新聞一面に大きく載せていただきました。

当日は、玉置光代さん指揮の年金者女性コーラスは『あの子はだあれ』『歌の町』『見上げてごらん夜の星を』『ぞうれっしゃよ走れ』『憲法九条五月晴れ』を会場の参加者と一緒になって歌いました。記念講演の湯川逸紀さんは、湯川さんのお母さんが、亡くなるまで大切にしていた戦没学生であった弟の山根明さんの絵や「きけわだつみのこえ」に収録されている手記に基づいて戦争の悲惨さを話されました。最後は平尾容子さんたち「ゆらの朗読グループ」による平和を願う絵本『ばらの祈り』の群読が行われました。

1 時半に始まって 4 時近くまで 2 時間半に近い集会でしたが、途中で立つ人もなく、全員耳を傾けてくれていたので内容的にも成功したと考えています。なお、私たちはお寺の住職や教会の牧師さんたちに支えられてきたこともあって「カンパ」などの革新団体用語は使わず、貧者の一灯をイメージする御芳志と呼んでいます。その御芳志と、軍事戦跡ウォーキングマップ（これは 500 円以上のご芳志をいただいた希望者にお渡ししている）の合計は 2 万円を超えましたが、すべて皆様のご協力のおかげと感謝しています。（会代表の池本護さんより「九条の会・わかやま」380）

シール投票で高校生と対話

【高崎市／城東・塚沢 9 条の会】 選挙中

(7月13日)でもあったからか、今回はいつになく反応が良かった。特に若い高校生が足を止めてくれた時は嬉しいですね、素直な少年たちがまだいるという印象です。

部活帰りの丸刈りの彼らは、ためらいながら近寄ってくれました。素敵な笑顔も、伏し目がちな面持ちも、照れくさそうなほにかみも、ひとりひとりがやはり意思を持っているのだと思われました。そのグループ全員が「アベ改憲No.！」のシールを貼ってくれました。喜！

友達が「そんなのいいから、早く行こうよ」と急がして行ってしまっても、考えながら耳を傾けてくれる少女たち。平和憲法のこと、イージスアショワのこと、何も知らない、先生方も何も言わない、と言います。勉強して、みんなで話してみてもよびかけました。

シール投票は、署名とちがいシールを貼るという気軽いアクションが、対話につながりますね。しかし、呼びかけても「大丈夫です」と。思わず「大丈夫じゃないんです」と叫びたくなります。

皆でやれることをやり、無理なく行動することの大切さを感じます。投票結果 投票総数43票 改憲賛成3 改憲反対37 わからない3 参加10人土曜行動とコラボ。

(高崎市民の会「あきらめない」第68号)

東京連絡会6・12大集会の発言から

駅も繁華街もない町で戸別訪問活動

日の出九条の会 (丸山タマエ、植村富美子、渡辺薫、鈴木直美、丸山浩)

私たちは、東京の西のはずれ、西多摩郡日の出町で活動しています。町には駅や繁華街がないため、一軒一軒訪問して、3000万署名のお願いをしています。署名簿、資料、そして地図をもって意気揚々と出かけます。その様子をちょっとご紹介します。

ピンポン、こんにちは。私たちは憲法9条を守る署名にやってきたんですけど、あ、うちは大丈夫です。え？ 大丈夫？ 何のことだろう。署名しないってことでしょうか？ そうなんだ。何でこの家だけ大丈夫なのかと思った。ね、今度はあなたやってよ。嫌だ、うまく言えないし、ピンポンおすのは苦手なんだ。じゃあ、ジャンケンしよ。無理無理。渡辺さんやってよ、私、パンフレット渡す係がいいな。

何やってんだよ、しょうがねえな。おれがやるよ。ピンポン。9条を守る署名です。よろしくお願いします。はい。あ、憲法9条を守る署名なんですね。いいです、やりますよ、ご苦労さま。はい、ありがとうございました。それで、一筆でも多い方がいいんです。ぜひ、ご家族ご一同さまでやっていただきたいんですけど。あ、分かりました。安倍さんは強引で怖いもんね、戦争は本当嫌だわ。でも、高校生の息子でもいいんですか。若い人こそ危ないんです。私のような白髪頭は用なしですよ。それに、徴兵制も敷かれるかもしれませんしね。よろしくお願いします。そうなんだ、怖いんですね。じゃあ、家族みんなで書きます。ありがとうございました。全国で3000万目指してやっているんですよ。ぜひ、お知り合いにも広めてほしいんです。署名用紙を1枚置いていきますので、これで、もし集めら

れたらよろしくお願ひします。全部は集まらないかもしれないけど、友達にも頼んでみます。ご苦労さま。

よかったわね。きょうは、全部で 60 筆も集まったわ。私たちはたった 1 筆だったけど。何かスッキリしていい気持ちになったわね。そうだね。来週も頑張ろうね。うん、頑張らましよう。

こんな具合で、みんなで励まし合いながら集め、現在、3967 筆になりました。第 2 の目標の 4000 筆まで、あと 33 筆です。署名していただけないことも結構多いんですけど、署名をしてもらうととても嬉しくなります。ともに頑張らましよう。

重要なのは世代を超えた連帯

PeaceNight9 兼古祐己

PeaceNight9 は「憲法 9 条を守り生かさう」、「戦争も核兵器もいらない」という思いをみんなに広げようと、首都圏各大学の「9 条の会」のメンバーを中心に活動しています。PeaceNight9 では、年末に毎年 PeaceNight9 という 9 条や平和問題に関する集会を行っています。

安倍政権・自民党を中心に憲法改正がしきりと議論されているなかで、多くの青年は憲法改正に関して「よくわからない」「どちらとも言えない」という立場を示しています。憲法改正に「賛成」は「反対」に比べて少数ではあるものの、この中には「自衛隊を認めなければかわいそう」など、改憲勢力の流布する文句に近いことを言う人もいます。

F 35 ステルス戦闘機の爆買いや「いずも」の空母化など、年々軍事費が増大する一方

で、過密労働により命を守れないという事件が起こるなど、助けを必要としながらも十分な支援を受けられず、どうしていいかわからず右往左往している人が数多くいます。このように軍事費の増大に付随し、社会福祉の破壊がすでにかなり進んでいることは見逃せません。

社会的手当てを求めている人への援助は不十分であり、憲法 25 条で保障された「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」が侵害されていて、また年々軍事費が増大しているいま、憲法改正はその総仕上げとも言えます。

当初、安倍首相は「2020 年までに憲法改正を」と宣言していましたが、未だに改正されないのは、まさにこれまで運動を引っ張ってきた市民の力のおかげです。しかし、これまで運動を引っ張ってきた世代と若年層の世代間で憲法に対する意識の違いがあるように思われます。だからこそ私たち若い世代は憲法の意義・内容を学び、平和の尊さを理解しない人に憲法をいじらせないとともに、尊い命を守っていくため、社会の様々な世代との連帯を強め、大きな世論をつくっていかねばなりません。

7 月の参議院選挙で憲法改正が論点の一つとしてあり、早期の憲法改正、とりわけ 9 条の改憲が含まれています。憲法を守り生かすためにも、人が人らしく生きるためにも、互いを理解しあい、世代を超えた連帯が生まれ、草の根の運動がより発展する、そうしたきっかけの一つに今回のスピーチがなれば幸いです。

(九条の会東京連絡会「いきいき憲法」62 号)